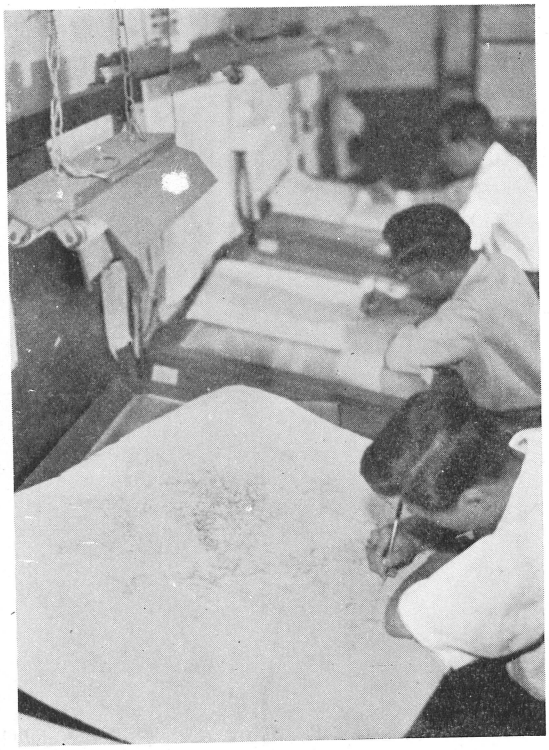
地方だより

Weather Central

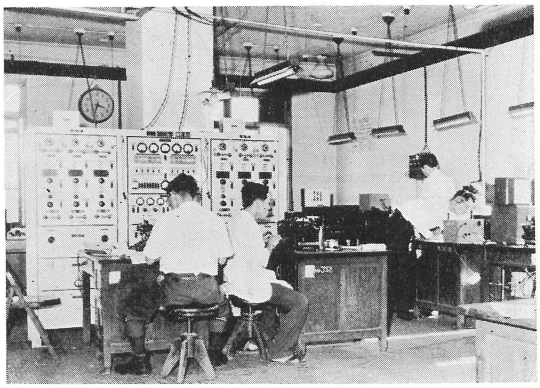
（気象庁予報部現業室）

ここには生活感覚としての曜日がない。昼夜もない．YとYYとGGとが機械的に変ってゆくだけである．時間tはただ一様に経過してゆく．何日とか何曜日とかいう約束はすぐ忘れてしまう．ここの暦は当直表である．人間というエントロピー計がなければ，時の経過それ自身が分らなくなるかもしれない．

四六時中，モールスのブザーとテレタイプの機械者がなりひびき，半球8千の観測所，数百の船舶，数十の飛行機の電報が，たえまなく流れこみ，たえまなく流れでてゆく．予報，通報，有線，無線の現業員がグリニジ0時とグリニジ8時にキチンキチンと当直を引ついで交代してゆく．どの日どの時刻をとっても，常時 100名が直についている．1日1回の半球監視と，第2オクタントの全時間全空間監視とが，われわれの任務である．IGYを機会に1日1回の南極監視を希望したがゆるされなかった．8船団1観測隊をだしながら，それをほっぽっておくというのは遺憾のきわみだ．いずれ全球解析をやるつもりだ．



予報現業室



通報現業室

気象庁随一の僻地気象官署，庁内に何がおこっているのか，また何がおころうとしているのかさっぱり分らない．その代り社会の出来事なら一般市民よりはるかに早く知っている．ラジオ新聞の速報網，警視庁，消防庁，海上保安庁の当直室に直結しているからである．手にとるごとく情報が入り，即時フィードバックする．ニシンの漁況や東北米の出来高にも精通する．これは毎晩翌日の北海道版や岩手版を読むからだ．

さて本会会員は総員の3分の1くらいだろうか．夜半仕事の手すきに，ソバの最終版をすすりながら「天気」を読んでいるのがよくある．ソバの1版は10Zで，14Z3版の配達とともに〝おソバの注文ありませんかァ，これでしめきりでーす〟とふれてくる．15Zに配達されるのが4版でこれがソバの最終版である．

1957・6・10

気象庁予報部　久米庸孝

☆　☆

☆

☆　☆